

NPO パートナシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 任意団体テンカラセン代表者名 高橋一美

1. 事業名
人と人をつなげる熱海伊豆山復興プロジェクト
2. 事業カテゴリー
復興
3. 事業期間
2021年11月12日 ～ 2022年3月31日 (142日間)
4. 契約金額
1,000,000円
5. 担当者名
高橋一美
6. 事業目的
土石流被害を受けた熱海市伊豆山地区において、地元住民が立ち上げた任意団体テンカラセンの運営体制を整え、住民の見守りなど人と人をつなぐ活動を行うことで、復旧・復興を後押しし、誰もが住みやすいまちをつくることに貢献する。
7. 事業の成果
土石流災害にあった熱海市伊豆山地区の災害復旧・復興に強い思いを持つ若い同世代の人たちと声をかけ合い、復興を推進していくための任意団体テンカラセンを発足することができた。在宅被災者への支援物資の配布や、防犯のための見回り活動、行政からの情報伝達など幅広い活動を展開し、地域のための団体として地域住民に認知されるようになった。
また、行政が住民の現状や声を集約できていない現状を知り、現地の声を拾い集めて行政へ届けるパイプ役としての活動も意識することで行政にも認知されるようになり、地域からの情報がより集まりやすくなった。
伊豆山の人たちが被災後の生活に関して聞きたいことや困りごとがあっても、どこに尋ねればいいのかわからない状況があったが、団体を立ち上げ、情報発信する中で「テンカラセン」や代表の「高橋一美」という名前が報道され、迷った時に「あの人に聞いてみよう」と頼ってもらえる存在となることができた。さらに行政などがフォローしきれない外部からの支援受付の窓口となることで、見守り活動を兼ねて住民全体へ支援を届けることができた。
さらに「今を話そう会」を開催することで、引きこもりがちだった被災住民の交流の場を作ることができた。その後も参加者とは電話やSNSなどを通じて連絡を取り合い、孤立化防止をサポートしている。
ホームページやSNSの整備・運営を進めることができたほか、伊豆山の浜会館に団体の拠点をもつことができ、その拠点にコミュニティカフェ「あいぞめ珈琲店」をオープンするための準備を進めることができた。
8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果
 - (1) コンポーネント①団体の立ち上げと広報ツール・活動拠点兼コミュニティスペースの整備
 - ・任意団体を設立したことで銀行口座の開設につながり、寄付や支援金の窓口として活用することができた。支援金をくださった方が知人に紹介し、支援の輪が広がる、広がるという流れもあり、団体としてもありがたく、嬉しかった。
 - ・ホームページやSNSの整備を行い、団体の活動周知がしっかりできたことで他団体との連携につながった。ホームページに銀行口座を掲載したことで、全国からいつでも支援を受けられるようになり、知人のつながりや紹介のほか、まったく知らない遠方の方からの寄付などを通じて活動資金を獲得することができた。SNSで日々の活動や打ち合わせ風景など活動の様子を随時発信し続けることでフォロワーが増え、

熱海の今を伝えることにつながっている。「何も出来ないのでせめて支援だけでも」という声や「手伝えることはないか」など、SNSのDMを通じて連絡を受けるケースも増えた。

・活動を通して、地域住民の声を聞く機会が増え、自分達の目でも見て土石流で家屋が流され気軽に住民同士が話す場所も無くなったので『人が気軽に集まれるような場所を作るべきだ』と感じた。クラウドファンディング「土石流災害から復興！伊豆山に人が交わるコミュニティカフェをつくりたい！」を実施し、開始から10日ほどで目標額450万円の1/3を達成することができた。最終的に約480万円の支援が集まり、コミュニティカフェの開店につながった。団体を作ったことが浜会館の契約につながり、地域住民が集まれる場所（あいぞめ珈琲店）が生まれるきっかけとなった。

(2) コンポーネント②高齢者を中心とした被災地域の住民の見守り訪問活動や被災住民の情報共有会の実施

・Tシャツ、キャップなどのユニフォームを作成し、活動時やメディア露出時に着用することで「テンカラセン」という団体の認知につながった。また地域住民も地元団体の『テンカラセン』の人だと一眼でわかる様になった。

・住民同士の情報共有を兼ねて、日本ファシリテーション協会とテンカラセンが主催し、浜会館にて「今を話そう会」開催。参加への呼び込みは高橋が直接声をかけ説明をしながら住民を集めた（住民それぞれの性格的、また被災後の精神的に人前で発言できない方も居るので、参加してもらいやすくし、全体的に満遍なく発言できる環境作りのため）。2月以降はコロナ禍の影響で話そう会の実施ができなかったが、2回実施ができた。

・11/9（住民10名（浜地区・仲道地区・岸谷地区）+テンカラセン4名参加）

・12/19（住民10名（浜地区）+テンカラセン4名参加）

「みんなの話を聞くことで見えてきた問題や課題を解決する議論の場として次回も開催して欲しい」や「同じ痛みを持っている人と話せて嬉しかった」といった意見を住民から集めることができた。さらに、「契約していた駐車場が流されその補償について」「土石流で水の流れが変わり自宅に水が流れてきた」など現在進行形で起きている困りごとや地域住民の分断といった現状を、当事者から聞くことができた。行政に住民の声が届いていないため、パイプ役になれる様に市長と行政とテンカラセンで情報交換会も行い、住民からのヒアリング内容を伝えた（3/25実施 行政職員10名+市長+テンカラセン5名参加）。

・年末前に伊豆山の浜地区を周り、各戸に声がけしながら家族構成、居住人数、ペットの有無などの聞き取りを約30件行なった。また、熱海市社会福祉協議会がみなし仮設の人を対象に行なったイベントにテンカラセンから30人分のお弁当とチラシを配布し、今後支援が届けられるように住所登録を呼びかけたところ、伊豆山在住10名とみなし仮設の住民3名から連絡先登録を受けた。引き続き、みなし仮設に移った人たちの連絡先収集を継続し、交流や活動を広めていく予定。

・支援いただいた自動車は、伊豆山住民の生活状況把握時の移動に使用している。特にみなし仮設の遠方に行く際にもメンバーが同乗し移動ができるようになった。

・静岡県藤枝市『ふるさとみかん山の会』から、支援でみかんが100箱届いた際、事前に町内会などから収集していた居住者リストをもとにロスなく岸谷地区住民に配布することができた。ほかにもりんごやペット用品など行政や町内会などがマンパワー不足で受けることの難しい支援をテンカラセンで調整するなどの役割を地域で担った。

・緊急連絡網の作成に際して、住民から「個人情報は何に使われて、どういう管理をしてくれるのか不安」という声もあり、団体としても個人情報管理をするにあたりプライバシーマーク制度の取得を考えたが申請手続きが煩雑で、他の活動と並行して行う時間が取れず、なかなか進められなかった。

・個人情報を収集するにあたり、他団体や行政から提供してもらうことが難しく、個人にそれぞれ直接聞き込みが必要なため時間を要している。その代わりに町内会と連携することで支援の戸別配布やみなし仮設へのアプローチなどは行うことができた。

※プライバシーマーク制度とは

個人情報を適切に取り扱っている企業や団体を、第三者機関である「一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）」及びその指定機関が審査し、その証としてプライバシーマークと称するロゴの使用を認定する制度。<https://www.jipdec.or.jp/project/pmark.html>

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

- 住民に寄り添う活動をしてきたが、当初考えていた災害時に活用できる緊急連絡網の作成などは個人情報の取り扱い法で上手く進められなかった。どのような形で地域住民の情報を把握するのがよいかなども検討しながら今後も引き続き継続して個人情報収集をしていく。
- 行政との連携は難しかった。たとえば被災に対する保障について住民から問い合わせを受けて行政に確認することもあったが、「検討します」と言われたままその後の情報共有がされず、住民に回答や情報

を届けられない事も多々あった。

- 空き家や高齢者の居住構成など、これまで町内会を含めて情報を把握できていなかったが、支援活動を通じて、そうした地域の情報集約や緊急連絡網作成の重要性を改めて感じた。
- 団体メンバーそれぞれに本業がある中で、どこまでの作業分担をしていいのか掴めない。復旧が進み日常が戻ってきたことで活動に携わる機会が減ったメンバーも、参加に気後れしてしまう部分があるので、そのコミュニケーションを模索している。

10. 協力体制の構築

「伊豆山の復旧・復興を支えたい」という復興に対する方向性が同じ諸団体との活動をしてきたので、今後も継続できると感じている。

- 熱海市社会福祉協議会→各住民の状況や活動について情報共有
- 日本ファシリテーション協会→「今を話そう会」を共同で主催
- 熱海キコリーズ、睦月建築工芸→大晦日イベントのコースター支援
- 稲村生コン→大晦日イベントのコースター支援
- BOND&JUSTICE→大晦日イベントに熊本から竹灯籠を支援、現場にもお手伝いで参加
- 未来創造部→大晦日イベントの瓶貸し出し
- 塚田農園（長野県）→林檎を提供し伊豆山小学校と泉小中学校や地域住民に配布
- 熱海トライサイクル→伊豆山専用マップ作成・配布
- 睦月建築工芸→コミュニティカフェ「あいぞめ珈琲店」の内装デザインおよび施工
- OBJ（オペレーション・ブレッシング・ジャパン）→地域の子供支援を共同で実施
- 八ヶ岳グリーンネットワーク→プランターを提供し伊豆山小学校と泉小中学校に配布・寄贈
- 日本レスキュー協会→ペット用品の提供・配布

11. Civic Force との協働について

ボランティア活動ではなく、より継続的な支援活動を行うために団体立ち上げを提案していただいたことで、テンカラセンを立ち上げることができた。誰一人ボランティア経験や組織立ち上げの経験がないところからサポートしていただいたおかげで現在まで活動できている。Civic Force が熱海に来てくださらなければテンカラセンは存在しなかったと感じている。

団体立ち上げ後も、オンラインでのサポートをいただき、関連情報やアイデアなどを提供していただいたおかげで、活動の精度をあげることができた。